

第8回 航空自衛隊第1補給処オフィス家具等
の事務用品談合事案調査・検討委員会

議 事 概 要 等

- 1 日 時：22年12月14日（火）1030～1115
- 2 場 所：第1省議室
- 3 出席者：広田防衛大臣政務官、事務次官、大臣官房長、人事教育局長、経理装備局長、鈴木審議官（総合取得改革担当）
統合幕僚長、陸上幕僚長、海上幕僚副長、航空幕僚長、防衛監察監
川戸 恵子 自衛隊員倫理審査会会長（有識者委員）
小室 恒 防衛人事審議会会長（有識者委員）
坂井 一郎 防衛調達審議会会長（有識者委員）
人事教育局人事計画・補任課長、人事教育局サービス管理官、経理装備局監査課長、経理装備局装備政策課長

4 広田防衛大臣政務官の冒頭発言の概要

本日は、調査・検討委員会の第8回目。本事案は、航空自衛隊のみならず防衛省、自衛隊の信頼を大きく失墜する事案である。防衛施設庁の談合事案が発生し、その再発防止策を検討しているさなかにも継続していたことは、深刻に受け止めていかなければならない。

本件の背景原因は、様々なものがあるが、OBの再就職企業への優遇、しがらみ企業への配慮、年度末を迎え予算を使い切らなければならないという意識、それらが複雑に絡み合っているものと考えられる。

報告書では、事実関係を明らかにしながらどの様に再発防止策を講じていくかが重要と考える。再就職の自粛、調達方法のアウトソーシング、第1補給処の組織の抜本的な見直しなど多くの改善策を講じていかなければならない。

本報告書は、これまでの調査によって明らかとなった事実関係、背景、原因、改善策について有識者の方々のご意見も頂きとりまとめたものであり、委員の方々に議論をしていただきたい。

本報告書についてご了解が得られれば、公表し本報告書に基づいて改善策を講じていきたい。その意味でこの報告書は、「終わりではなく、始まりである」との認識のもとすすめて参りたい。

5 議論の概要

調査報告書に基づく説明の後、次のような意見が出された。

本件事案は、入札・契約段階ではなく、品目の選定とも言える調達要求段階において、入札談合等関与行為が行われていたという点で特徴的なものであった。このため、単に入札・契約段階での問題点のみを念頭に置くのではなく、予算要求、予算執行などを含めて、今後の再発防止策に取り組んでいく必要があるとの意見があった。

再就職についても、本件事案の改善措置として厳格に取り扱う必要があるが、一方で、若年において退職する自衛官になくってはならないものであるので、片っ端に規制するようなことがないよう、十分に考慮していただきたいとの意見があった。

本件事案では、組織として予算の執行残額を使い切ることが重視されていた点の一つの要因となっているが、大事な税金を使うのだから、恒常的に倫理観を強く持って改善策等に取り組んで頂きたいとの意見があった。

防衛調達審議会においても、入札談合を抑止する観点から更に調査審議を充実していく必要があり、報告書の改善措置として掲げられた取組を着実に実施していきたいとの意見があった。

防衛監察本部においても、防衛監察を通じて、法令の遵守意識等の教育に努めてまいりたいとの意見があった。

航空幕僚長から、航空自衛隊は、今回の事案をしっかりと反省してこれから一丸となって再発防止と、国民の皆様の信頼の回復に努めてまいりたいとの発言があった。

6 広田防衛大臣政務官の閉会発言の概要

本調査報告書について了承されたので、本報告書を公表することとする。

今後、本事案のようなことがないように、報告書に基づき、再発防止に取り組む、本来の任務である国防にまい進をしていただきたい。

最後に、川戸先生、小室先生、坂井先生には、ご多忙の中にもかかわらず、長きにわたり、本委員会にご尽力いただき感謝いたします。誠にありがとうございました。

「これが終わりではなく、スタートである」ことを肝に銘じて取り組んで参りたい。有識者委員の方々には、今後この報告書が、しっかりと実行されているかどうか見守っていただき叱咤激励ご指導をお願いしたい。

(以上)